

県勢男女とも16強

全日本高校バレー

バレーボールの全日本

高校選手権第2日は6日、東京体育館で2回戦が行われ、県代表は男子の創造学園がミスを出しながらもブロックなどで地方を發揮し、佐賀商にストレート勝ち。女子の東京都大塩尻はコンビバレーが機能して八王子実践(東京)に2-0で快勝した。7日は3回戦と準々決勝があり、創造学園は駿台学園(東京)、都市大塩尻は大和南(神奈川)と3回戦でそれぞれ対戦する。

▽男子2回戦
創造学園2(2525) 佐賀商1(1420)
▽女子2回戦
東京都2(2525) 八王子実践1(1618)
大塩尻0(0)

男子は前回王者の星城(愛知)が荏田(神奈川)に、前回準優勝の大塚(東京)に2-0で快勝し、阪が橋(神奈川)にそ



都市大塩尻―八王子実践 第2セット、スパイクを放つ都市大塩尻・牧田

都市大塩尻(女)全員バレー

京もベスト16入りした。女子は2連覇を狙う下北沢成徳(東京)が北九州(福岡)を2-1で下して3回戦に進んだ。昨年、松山東雲(愛媛)を2-1に1-2で競り負けた。0で退け、総体準優勝の

1回戦とは見違えるような動きで都市大塩尻の選手が躍動した。古豪の八王子実践を相手に序盤から主導権を握り続ける快勝。岡田監督は「全員が機能し、きちんと仕事をしてくれた」と表情を緩めた。

「エースをつぶす」。主将の牧田はチームの意思統一を図って試合に入った。表と裏の2人のエースをサーブで狙い、必ず2枚のブロックをつけて相手に本来のプレーをさせなかった。第1セットは中盤で一気に突き放し、第2セットはその勢いを加速させた。

前日はコンビバレーが不発だった。「うちのチームはセッターの出来次第」と岡田監督。前回大会後にアタッカーからセッターに転向した小林理は「初戦は緊張があり、トスが近かった

エース封じ成功 攻撃機能

り遠かったりした。1試合やって慣れ、いいトスが上がるようになった」と動きを取り戻した。速攻やライト攻撃が機能するようになると、際立ったのが高相のスパイク。身長は165センチと高くないが「85センチのランニングジャンプは実業団選手を含めても日本でトップクラス」(岡田監督)。

2年生エースは「相手のエースに負けたくない」と闘争心を前面に出して得点した。8強を懸け、昨年の国体で競り負けた大和南に挑む。前回大会、全国高校総体、国体と3大会連続で16強止まりだった壁を突き破れるか。牧田は「自分たちができることを思い切りやるだけ」と一戦必勝の思いを強調した。

(小平 匡啓)

■この記事・写真等は信濃毎日新聞の許諾を得て転載しています。無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。